

ようやくコロナの閉塞感から脱却！今こそ未来に向けて視野を広げよう！

Think Globally. + Act Locally. = Glocalism

恒例「グローカリズム」を取り上げて何年になるだろう——1995年の“Windows 95”発売以来、インターネットの拡大を機に、世の中はどんどん小さくなってきました。「情報化」&「グローバル化」です。長年かけて進行してきた交通・移動手段の高速化も、この革命的・瞬間的通信手段の比ではありません。

同時に社会問題が急増。「科学技術・医学の進歩」と「道徳・倫理観」はいつの時代も競争相手。切っても切れない深い関係です。残念ながら、歴史上、後者は前者に後れをとるのが常だったのに、これまでの反省は全く生かされず、今や、ネット上の情報拡大が速すぎて「道徳・倫理観」はゼロに等しく(?)になりました。

こんな時代を生き抜くために、情報化社会・グローバル化社会を正しく理解し、世界の平和と人類の幸福に寄与できる人間を目指しましょう。「ネットは、AIは、善か？悪か？」「世界を見ろ！国際化だ！外に出ろ！」と言われてどう考え、どう動くのか…その一つが「グローカリズム」 ↘

——地球規模で考え小さな単位で実践する“Glocalism”の考え方——

Think Globally

「地球規模でものを考え行動するリーダーの育成」を教育目標としている高校が日本各地にある。国がSGH(スーパーグローバルハイスクール)などと銘打って国際理解教育を推進し始めるずっと前から。



新聞を読むことを日課とし、事件や事故、社会現象や科学技術など、それぞれ興味を持った事柄について自らの意見を述べる。級友の考えに耳を傾け、評価し合う。そうした活動を積み重ねることによって、視野を広げ、社会人としての資質を培う。やがてそれは、さまざまな視点から世の中に目を向けることのできるリーダーシップにつながる。人に感謝し感謝される生き方にも。



ここ会津は周囲を山々に囲まれた盆地。それでもIT革命の恩恵を受けて「グローバル化」した世界の一部であることに違いはない。目の前の小さなことだけで世の中すべてを決めつけてしまうことなく、もっと広い視野で、人生を、世の中を考える姿勢を持とう！

実際、盆地の外に出て、自分たちの住む地域や国を外から客観的に見てみたいと考えている人もいますでしょ？

Act Locally

「でも、私はリーダーのタイプじゃないし、ずっとこの土地で暮らしたい。」と思ってる人もいますよね。な～んにも間違っていない。



だれもがノーベル賞をもらうような偉大な人物になれるはずがないし、大きな会社を経営したり、組織の中で高い地位に就く人たちだてごく一部だ。だからこそだれでもトライできそうな小さな実践で、世界の平和と人類の幸福に貢献できる方法を考える。



結婚してお母さんになって、毎日笑顔で家族と接し、おいしいご飯で胃袋を満たしてあげる。この家族の平和と幸福は、広い世界のほんの小さな一部かもしれないが、とても大きな価値のある社会貢献だ。店員さん、大工さん、工場勤務、農業、看護も介護も、消防も警察も役場職員も、観光案内もボランティアもローカルな活動み～んながそうだ。

AIの出現によって、多くの仕事が取って代わられてしまう危惧が叫ばれているが、最終的に一人一人が社会貢献の使命感を持たずに、健全な人間社会は成立しない。



そして、大なり小なり社会貢献を実現するためには、どんな小さな単位でも主体性が必要とされる。何の努力もなしに前述の母親業もどの仕事も全うできない。日頃から知識や教養を身につけ、深い思いやりで相手を理解する姿勢を忘れてはならないのだ。

Glocalism

みんなは地域のリーダーを輩出する進学校、会津高生。教育目標は「会津に根ざし、仲間と手を携えながら社会に貢献するグローバルリーダーの育成」だ。間違っても人を傷つけるようなことなく、「道徳・倫理観」を意識しながら、情報技術を正しく活用しよう。



そして得た情報をもとに、「**グローカリズム**」を進路実現、人生の礎にしていこう！

「広い視野で考えること」と「今できることに一生懸命取り組むこと」

グローバルな視点 ⇄ **ローカルな日常の実践** だあっ！

各学年へ～この時期のアドバイス～

1年生！ いろいろ「知ろう・考えよう」と努力してる？

高校初めての夏休み、歴史的炎暑の中、補習や部活もあった中で主体的に、自分や世の中を知るための意義ある時間を過ごすことができたでしょうか。会津高校に入学したことで満足し、次のステージへの努力を怠ってはいませんか？進路選択に重要な意味を持つ直接体験を積むことができているでしょうか？各教科の学習、オープンキャンパス、合宿や遠征、地道な部活動の練習や各種大会、探究活動で日ごろの関心を深化させる、といった「できること」の積み重ねが必要なのです。読書でもするならば、冷房の部屋でゴロゴロ時間を浪費してだけの毎日ではなかった(ない)ことを祈ります。

もう一つ、そもそも、みんなは自分に「知ることに喜びを感じる」力があると、自信を持って言えるでしょうか？実は社会貢献や進路実現に必須のこの感性、結構足りない人が最近多く見受けられます。「へえ～」「なるほど！」の回数と豊かな人生は比例するものです。あまり関心のないことでも、豊かな感性を持つことで視野を広げ、進路選択の幅を広げてください。

2年生！ 直接感じよう！そして先輩らしい先輩になろう!!

11月初め実施の2年生のメイン行事「修学旅行」。「探究活動」や「出張講義」も大切ですが、やはり旅行は場所を変えて足を使う重要な「直接体験」の場。自らの体で歩いたり、見たり、聴いたり、触れたり、味わったり、嗅いだりすることこそ、本当の進路学習。そこからどれだけのことを感じ取れるか、考えられるかが人生を豊かにするスパイスになるのです。京都の町を实际歩いてみて、「ああ、ここで大学生生活送りたいなあ」と決めた先輩も数多くいますよ。

すでに部活動や学会等で中心を担う2年生。自らの資質を伸ばすと同時に、後輩たちの面倒も見なければならない。「この先輩ならついていける」「よく知ってるなあ」「さすが、周りが見えている」「なんて思いやりがあるんだろう！」と感じてもらうには、まず、自分をみがく姿勢が必要。ほら、どんな3年生に「先輩」を感じたか、自分の身に置き換えれば自ずとわかるでしょ。たった1年学年が上だというだけで先輩面(づら)してしまうと面倒なことになりかねない。これは社会に出ても全く同じ。ま、逆に先輩からも頼られるような存在になれば理想的。年齢だけで先輩・後輩を名乗る日本の文化は世界で珍しいのも事実だけど、なんとか「先輩らしい先輩」を目指そう！

3年生！ 模擬試験の嵐に呑み込まれるな！

共通テストまで約120日。テスト、テスト。そう、3年生はこの時期、模擬試験に追われます。結果の成績個票が戻ってきても、一体いつの模試の結果かわからない。そんな状況まで生まれます。が、ここでもキーワードは「主体性」。「また、テストか。早く抜け出したいなあ。」ではなく、「よっしゃ～！今度のテストはどれくらい伸びるかなあ。楽しみだ！」の姿勢で臨んでください。テストは結果や伸びを楽しみながら進路を具体化する機会です。

そして、今さら言うことでもありませんが、模試の「結果に一喜一憂するだけ」で終わらないことが大切です。数字は数字。練習段階で満足したり落ち込んだりしているレベルでは、山の向こうで必死こいてる数十万人のライバルたちには勝てません。必ず反省・復習し、本番につなげる主体的な努力を継続してください。

さらに、共通テスト出願や推薦入試・総合選抜入試などの手続きも大切なプロセスです。正確に手続きを進めることや「ホウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)」は、社会人としての基本資質。会津高生らしくピシッと一回で済ませること！